

機械器具取り扱いに関する動詞のコロケーションの研究

D1 朱 薇娜

1、はじめに

「電話をかける」という言葉、今日では誰でも何の違和感もなしに使う言葉であるが、なぜ「かける」なのか、初めからそうであったか、と問われれば、返答に困るのであろう。昔の電話は壁掛け式で、それで「電話をかける」というのではないかとも考えた。また同じ電気通信でも電信を「送る、打つ」と言うが、通信の意味で似てはいるが電話では、「送る、打つ」などとは言わない。そのような語と語の習慣的な結びつき、つまりコロケーションの勉強は日本語教育現場でよく「習慣ですからそのまま丸暗記してください」と一言で始末することが多い。だが、習慣形成の背後に何か理由が潜んでいるのではないか。

2、調査

2.1 コーパス青空文庫

本調査では、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) を利用した。

そこに登録された小説の時代性を考えると、次のいくつかの機器道具に焦点を当てることにした。「電燈」、「電話」、「ラジオ」、「蓄音機」、「アイロン」、「ミシン」。

一方、「テレビ」や「洗濯機」、「エアコン」の三語は、青空文庫ではほぼ出現していないため、ほかのコーパスで調査することにしておく。

では、次の表はそれぞれの検索結果と例文をまとめたものである。「買う」、「据える」などのような取り扱いに関連しない動詞をすべて除外することにしていく。また、本調査では、機械器具を使用していない状態から使用する状態にさせる動詞に焦点を当てるために、「消す」、「切る」など電源をオフにする動詞が敢えてここで取り上げないことにした。

2.1.1 電灯（電燈）

電灯 (電燈)	ヒッ ト数	著者名	作品名	
をつける (点ける)	67	芥川龍之介	田端日記	僕は起きて、戸をしめて電燈をつけて、眠くなるまで枕もとの本を読んだ。
をとます (点す)	11	芥川龍之介	お律と子等と	慎太郎はとこ床の上に、しばらくあぐらをかいていたが、やがて立ち上って電燈をとました。
をひねる (捻る)	3	宮本百合子	鏡餅	サエがその電燈をひねり、鏡をみながら髪をかきつけていると、向い側の家の障子にもパッと燈かけが溢れ、人声がする。

「電灯をつける」という表現はヒット数がもっとも多く、昭和時代からすで

に定着していると窺える。電灯出現以前のランプでは石油など油類が使用され、そのころは「ともす」が主流だったであろう。「電灯をともす」はその時代の名残りだと考えられる。「電燈をひねる」は「スイッチをひねる」から来ているのであろう。

日本国語大辞典（第二版）

☐一方から他方へ、ある気持、力、作用などをはたらかせる

③火を燃え移らせる。また、あかりをともす。

竹取、宇治拾遺、破戒（1906）には「火をつける」や「灯をつける」などの表現が出ている。

『広辞苑』（第五版）

㊦ 感覚や力を働かす

②燃え移らせる。発火させる。

③ともす。器具のスイッチを入れる。

源氏物語（末摘花）、日葡辞書の例文が出ている。

以上のことから、「つける」は「火をつける」から、「灯をつける」に移して、また「電気をつける」にたどり着いたと考えられる。

2. 1.2 電話

電話	ヒット数	著者名	作品名	
をかける	281	芥川龍之介	歯車	大へんなことが起つたもんですから、今叔母さんにも電話を かけ たんです

「かける」以外の取り扱い動詞は青空文庫では見られなかった。「電話」が出始めた頃から、「かける」と結びつき始めたのかどうかは、より古い文献を調べる必要がある。

昔の電話は壁掛け式で、それで「電話をかける」というのではないかと考えていたが、調査では反対した結果が出てきた。

青空文庫で「受話器をかけ／掛け」で検索したところ、出てきた12件の例文はいずれも「電話を切る」という意味となっている。

電話はそれぎり切れてしまった。僕はもとのように受話器をかけ、反射的にベルのボタン鈕を押した。

芥川龍之介 『歯車』

つまり、「受話器を電話機に掛ける」という動作は、「洋服をハンガーに掛ける」とか、「絵を壁に掛ける」とかに類似しており、「かける」の基本義に最も

近いと言えよう。「電話をかける」の「かける」はその基本義ではないことが分かった。

日本国語大辞典

- ④ 相手を作用の目標にする。また、その相手に影響力の大きい作用を及ぼす。相手に反応を求めるような作用を及ぼす。しかけを發する。
徒然草（1331 頃）『あやまちすな。心しておりよ』と言葉をかけ侍りしを」
日葡辞書（1603－1604）「コエヲカクル」

広辞苑にも、似ている解釈とほぼ同じ例を示してある。

⑤ 他にむけてある動作・作用を及ぼす

- ①ある作用を相手に向ける。施す。

辞書は「声をかける」から「電話をかける」に意味拡張していることを示唆している。

2. 1.3 ラジオ

ラジオ	ヒッ ト数	著者名	作品名						
をかける	9	太宰治	鬱屈禍	私の隣の家では、朝から夜中まで、ラジオを かけっぱなし で、甚だ、うるさく、私は、自分の小説の不出来を、そのせいだと思っていたのだが					
をならす	2	林芙美子	おにおん 倶楽部	四人があつまると、狭い家の中が、まるでお祭りみたいに賑かになって、ラジオを十臺も 鳴ら しているようだと言ったと庄作さんが冷かしている。					
をひねる	1	海野十三	空襲下の 日本	思いついて、ラジオを ひね ってみたところ、いつもとは違ってアナウンサーの上ずった声が、容易ならぬ臨時ニュースを放送していた。					

現在では、「ラジオをならす」や「ラジオをひねる」をあまり言えなくなっている。「ならす」はラジオをつけるという TURN ON の意味よりも、ラジオが流れている状態を表現しているのであろう。ひねるはつまみがあった昔風のラジオのことだと推測できる。

辞書には明示されていないが、「ラジオをかける」は「蓄音機をかける」と同じルートではないかと考えている。

2. 1.4 蓄音機

蓄音機	ヒット数	著作者	作品名	
をかける	6	海野十三	暗号音盤事件	私は、蓄音機を <u>かけて</u> みようと思った。廻転盤の上には、音盤（レコード）が載っていなかった。
をならす	2	織田作之助	雪の夜	だが、ピリケン <small>（三階にある）</small> の三階にある舞踏場でも休みなしに蓄音機を <u>鳴らし</u> ていた

「蓄音機をかける」は「電話をかける」と同じルートなのか、「蓄音機にレコードをかける」から来ているのか、興味深いと思われる。

私はその一枚をとって、蓄音機にかけてみた。

海野十三 『暗号音盤事件』

2.1.5 アイロン

アイロン	ヒット数	著者名	作品名	
をかける	8	宮本百合子	幸福の建設	だから電気で洗濯して電気で <u>アイロンをさっさとかけて</u> 電気で料理をして、かたわらでラジオを聴いて勉強してられるというように
をあてる	2	宮本百合子	獄中への手紙	この間雨の日、この祖父と孫ほどに見える父子が、さすがキッチンと <u>アイロンを当てた</u> 服を着、爺さんゲートル巻き下駄ばき、白い風呂敷包みを背負って（炊事用品）息子、カバンをかけ、小さい包み二つもって、つれ立って玄関に立っているのを見て、哀れを感じ
をつける	1	豊島与志雄	靈感	<u>アイロンをうっかりつけっ放し</u> にして、買い物に出たあと、過熱のために畳をこがし、襖にも火がついたらしいとのことでした。
をうごかす	1	芥川龍之介	夢	硝子戸（ガラスど）を立てた洗濯屋の店にはシャツ一枚になった職人が二人せっせと <u>アイロンを動かしていた</u> 。

一番最初のアイロンは炭火を熱源としていた。「アイロンをあてる」が一番最初の言い方ではないかと考えている。

「アイロンをかける」の「かける」と「ラジオ・蓄音機をかける」の「かける」は機械に作用を施すというところで似ているが、違うところもある。

「アイロンをかける」は服にアイロンを当てて、動作主の人間の絶えざる働きかけが必要となる。そのため、「アイロンをかけっぱなし」より「アイロンをつけっぱなし」といったほうがじっくり来る。「ラジオをかける」はかけたら、ラジオが人間の関与なしに、動的な状態を維持することができるが、一方で、「アイロン」は動作主の働きかけがなければ、自動的に服のしわを伸ばしたりしてかけることができない。

2.1.6 ミシン

ミシン	ヒット数	著者名	作品名	
をふむ	13	織田作之助	旅の誘い	へ月に三度の公休日にも映画ひとつ見ようとせず、お茶ひとつ飲みにも行かず、切り詰め切り詰めた一人暮らしの中で、せつせと内職の <u>ミシンを踏み</u> 、急ぎの仕立の時には徹夜した。
をかける	4	徳田秋声	あらくれ	むずかしい将校服などにも、綺麗に <u>ミシンをかける</u> ことが出来てきた。
をうごかす	3	太宰治	帰去来	そうして奥の一部屋で熟練のお弟子が二人、 <u>ミシンをカタカタと動かしている</u> 。
をあてる	1	林芙美子	新生の門	のしを張っている人たち、軍需品だと云う白い小さい布に <u>ミシンをあてている</u> 人たち、どのひとも、罪を犯してここへ来ているひとはみえない、なごやかな表情ばかりです。
をまわす	1	宮本百合子	街	恐らく彼が、片手でルパンカの胸を抱え、右手で頻りに金髪を撫でつつ、決心しかねている今の瞬間、若いダーシェンカは、 <u>手ミシンを廻し</u> ながら、子供服の袖でもつけているであろう。

「ミシンを踏む」のヒット数が多くて、「ミシンをかける」が目立たないが、これはミシンを使うことを人の動作の「踏む」で表したものと考えられる。厳密には、ミシンで縫製の作業をするのは「かける」と言うべきと思われるが、ただ使うだけならそれを動かす操作の「踏む」のほうが、情景描写として確かに言いやすく分かりやすい。

2.2. 聞蔵コーパス

2.2.1 テレビ

テレビ	ヒット数	
をつける	81	<u>テレビをつけない日を決め、その日は本を読んだり資格の勉強をしたりと、自分磨きに集中してみよう。</u>

「テレビをつける」は「電気をつける」から来ていると考えられる。

2.2.2 洗濯機

洗濯機	ヒット数	
をまわす	6	夫と一緒に受診してくれ、朝出勤前に掃除機をかけ、 <u>洗濯機をまわして</u> くれる
をかける	3	練習の疲れで <u>洗濯機をかけながら</u> つい眠ってしまうこともあるが、そんなときは、もう一人が干しておいてくれる。

「洗濯機を回す」は「ミシンを踏む」に類似しており、情景描写である。

2.2.3 エアコン

エアコン	ヒット数	
をつける	130	大学の同僚が米国に住んでいた頃、アパートの部屋代に電気料金が含まれていたため留守中でも <u>エアコンをつけっぱなし</u> にしていたそうだ。
をかける	43	<u>エアコンをかけて</u> 寝たら、風邪ひいた

3 「かける」と「つける」の対照

	電灯	電話	ラジオ	蓄音機	アイロン	ミシン	テレビ	洗濯機	エアコン
かける	×	○	○	○	○	○	×	○	○
つける	○	×	○注	?	△	×	○	×	○
	もとす		ならず	ならず	あてる	ふむ		まわす	

注：青空文庫では「ラジオをつける」のような表現がひとつもなかったが、現在では、許容度が高い。

電話、ラジオ、蓄音機、アイロン、洗濯機、ミシン、エアコンは全部「かけ

る」と組み合わせることができるが、細分すると、「かける」の異なる意味で使われている。「電話をかける」は「声をかける」からたどることができる。「ラジオ」と「蓄音機」は同じルートからではないかと考えられる。「アイロン」は「布に熱をかける」で、「ミシン」は「布に糸を縫う」で、「エアコン」は「部屋に温風を送る」というように、「ものに効能を施す」ところでは、類似している。

一方、「つける」では、電気機器・器具類に多用されるその始動の操作は、その根源の形は、多分、「火を点ける」が先ず「灯を点ける」に転じ、電灯に於けるそのスイッチ操作の共通性から、一般の電気用品に拡張使用されたものと思われる。

「ラジオをつける」も許容されている利用は、電源を入れるという意味で使われているからだと思う。

3. おわりに

以上は主に青空文庫をコーパスにして「電話」、「ラジオ」等のいくつかの家庭用機械器具に関連する取り扱い動詞を考察してみた。

取り扱い動詞の使用実態を述べているに留まっているが、これからの課題として、次の四つの角度からアプローチしたい。

①青空文庫、聞蔵のほかに、電気製品会社のパンフレットを調べてみたい。昭和時代から現在にかけて活躍している何人かの女流作家を選定して、その作品を調べてもみたい。

② 歴史的に見るには、年代別に例文を整理する必要がある。

③ 「かける」、「つける」といった使用していない状態から使用する状態に電化機械を取り扱う動詞だけを取り上げたが、調査の中で「切る」、「消す」、「とめる」などの電源をオフにする、使用しない状態にさせる動詞も少なくない。これらも考察の対象に入れるべきだと考える。

④ 中国語や、英語などの言語との対照を通じて、新しい発見ができるものだ。

以上を踏まえてこれからの課題として考察をしていきたい。